

2022年8月9日

株式会社アダストリア

2023 年2月期 第1四半期決算 FAQ

7月8日（金）の2023年2月期 第1四半期決算発表後、メディア、アナリスト、機関投資家のみなさまからいただいた主なご質問をまとめました。

■業績について

Q.第1四半期業績が好調だった理由について、教えて欲しい。

A.第1四半期は、行動規制緩和による外出需要の増加、ゴールデンウィークの人流の回復、トレンドを捉えた商品企画により増収となりました。利益面では、円安や原材料価格の高騰などのマイナス要因はあったものの、値引きの抑制などにより売上総利益率は維持し、販管費をコントロールしたことにより、増益となりました。計画比では、売上高、利益ともに予想を上回る進捗となりました。

Q.売上総利益率の内訳について、教えて欲しい。

A.当第1四半期より収益認識に関する会計基準を適用したことが0.4%の押し下げ要因となりましたが、前出の値引き抑制に加え、関税や物流コストの効率化により、アパレル・雑貨関連事業の売上総利益率は前年同期比で0.2%の改善となりました。また飲食事業のゼットンを連結したことが0.7%の上昇要因となり、結果として前年同期比0.5%の増加となりました。

■販管費について

Q.販管費について、具体的にどの部分で抑制できたかを教えて欲しい。

A.広告宣伝費は、自社EC「ドットエスティ」や「グローバルワーク」のテレビCMの放映などにより、ほぼ計画どおりに遂行しましたが、収益認識に関する会計基準を適用により、

約6億円が売上値引きに振替となった影響で、1.3億円の減少となりました。人件費、設備費は、額としては増加しましたが、増収効果で比率は改善しました。設備費につきましては、家賃条件改善の効果も見られました。

■在庫について

Q.在庫の水準および状況について知りたい。

A.第1四半期の棚卸資産前年同期比は105.2%となり、適正水準で推移しました。国内ではゴールデンウィーク明けから6月にかけて、上海ロックダウンの影響による納品の遅れのため、在庫が若干不足する時期がありましたが、6月から徐々に正常化し、現在は回復しております。為替影響により円換算での海外の在庫は増加していますが、水準は適正です。

■海外について

Q.第1四半期の海外各国の販売状況について知りたい。

A.香港では、新型コロナウイルスの影響により減収減益となりましたが、その後回復しております。中国大陸は、昨年オープンしたショッピングモール内の店舗が寄与し増収となりましたが、2月下旬から新型コロナウイルスの感染が拡大し、減益となりました。台湾では、新規ブランドの投入が寄与し、アメリカでも経済の好調と卸事業の受注増により、増収増益となりました。海外事業全体では、黒字を維持しました。

■外部環境について

Q.秋冬の商況の見通しと為替の影響について教えて欲しい。

A.現時点では、顧客の消費傾向に陰りは見えておらず、当社の商品企画にも手応えを感じており、秋冬も需要の動向に大きな変化はないことを前提としております。円安の影響は秋冬商品に向けて大きくなり、売上総利益率に0.5%～1%程度の押し下げ要因となる見込みですが、引き続き値引きを抑制することに加え、商品の高付加価値化や物流・関税の効率化などの事業努力で吸収していく予定です。

以 上